

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	玄海みらい学園
-----	---------

1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「みらいへステップ～3つの笑顔で～」については児童生徒はもとより地域にも浸透し、学校方針が広まっていた。昨年度は、県指定の学力向上推進地域指定を継続して取り組み、全職員で学習スタイルを定着させ公開授業を実施することができた。心の教育として義務教育学校の特色を出し、9か年を通した児童生徒の育成に努め、それぞれの上と認め、何かあった場合にも早期に対応できる体制作りを行ってきたことが現在の学園の落ち着いた様子へとつながっている。児童生徒会の取り組みについては、コロナ禍の状況でできる活動が限られていたがその中で自分達の思いを具現化できるように実行してきた。課題として、今年度学力向上の取り組みを行ってきたが、児童生徒の学力への成果がまだまだ十分とは言えない。次年度も学力向上を中心に学習スタイルを構築し、向上を促していきたい。また、児童生徒がさまざまな経験を積み重ね、主体的に考え行動できるように学校を上げて仕組む必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	みらいへステップ ～3つの笑顔で～
----------	-------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① あいさつや返事のできる児童生徒の育成と推進 ② 義務教育学校の特性を活かし、全職員が9年間の学びと育ちを意識した学校づくりの推進 ③ 生徒理解に基づいた生徒指導の充実と自主・自立の気概ある児童生徒の育成と推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえたアウトプット活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が、前期課程80%以上、後期課程70%以上。	「まとめ・振り返りシート」を作成・活用し、書く活動を確保できる授業づくりを行う。 ・授業だけでなく学校教育の様々な場面で、「話し合い」や「書く」のようなアウトプット活動を取り入れる。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎学力の定着と家庭学習の充実	○「授業や家庭学習に進んで取り組んでいる」「取り組んでいる」と回答する児童80%以上、保護者90%以上。 ○年間を通して、各学年の「おすすめの本」貸出達成児童50%以上。(前期課程) ○家庭学習の目安(中1・中2 90分以上、中3 120分以上)を達成していると答えた生徒が80%以上。	「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識をさらに高める。家庭学習の時間等のアンケート結果を配布し、家庭での学習に関心をもってもらう。(全学年) ・各学年の「おすすめの本」を設定し、読書を高める。(前期課程) ・家庭学習の量と質を考え、授業とのつながりのある課題を提示する。(後期課程)							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○前期課程の縦割り遊びを年8回以上行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕作業や集会を行う。	・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、仲良くなる集会、校内奉仕作業を行う。							・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめに気づき、注意したり、先生に知らせたりできる」という児童生徒80%以上。 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていてと答える職員90%以上。	・毎月末の生活アンケートを活用する。 いじめの定義や事例について、全てのクラスで道徳の授業や人権教室等で取り扱い、全校児童生徒の人権意識が高まるようにする。 ・発生したいじめ事実をその日のうちに共有できるように、生活部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。							・生徒指導主事 ・生活指導主事
	○児童生徒一人ひとりを大切に、受容と共感的理解に基づいた生徒指導の育成	○「自分で善悪の判断をしながら物事を考えて行動します」とのアンケートで達成割合90%以上。 ◎「自分と友達との違いを受け入れながら、誰とも公平に接している」とのアンケートで達成割合90%以上。	・月1回の人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、実行できるように指導にあたる。 ・道徳教育や学校行事を通して、より人間関係づくりを構築する。 ・気になる児童や生徒に関する情報交換の場(連絡協議会や教育相談等)を設けながら指導にあたる。							・人権・同和教育担当 ・道徳主任
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童、420分以上の生徒が80%以上。	・昼休みには体育館や運動場の使用割り当てを決め開放する。 ・校内持久走大会を計画・実施し、体育の時間や休み時間に運動場を走ること呼びかける。(前期課程) ・体育の授業では、ランニングと強化トレーニングを行う。(後期課程) ・部活動への積極的な入部・参加を勧める。(後期課程)							・体育主任
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上。	・朝食摂取、残菜0を呼びかける。 ・五大栄養素の大切さを食育により指導する。							・食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間40時間内の職員80%以上。	・タイムマネジメントを行うとともに、定時退勤日の推進や月別練習計画に沿った部活動指導や休養日の設定による負担軽減、平日の残業時間の削減を強く進める。							・管理職
	○組織における協働体制の構築と校務の効率化	○小中中部等を有効活用し、校務分掌や学年間の共通理解・共通実践を通じた協働体制の構築「私は組織に貢献できている」と答える職員80%以上 ○校内LANを用い、全職員が校務に関するデータの共有を図り、全職員参加の会議の時間を10%削減	・目標や役割を明確化し、成果と課題を基に、PDCAサイクルを機能させ、効率化を図る。 ・校内LANで校務データを共有し、誰もが利用できる環境にすることで効率化を図る。							・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○母校の誇りづくり	○自ら笑顔であいさつや返事ができる児童生徒の育成	○登下校時の挨拶を自らできる児童生徒70%以上。 ○廊下等ですれ違う時に挨拶が出来る児童生徒50%以上。	・登下校時の挨拶は、子どもから挨拶をするのを待つのではなく、大人(職員)側から積極的に声をかけるように共通理解を図り、実践する。							・生活部
○児童生徒会活動の充実	◎児童生徒会活動において「出番・役割・承認」による主体的な活動を仕組み、活動の質や自己有用感の向上とリーダー性の高揚	○年4回以上代表委員会を開催する。 ○年10回以上生徒集会を行う。	・代表委員会を開催し、児童生徒の意見を取り入れた活動を行う。 ・地域貢献・ボランティア活動を行う。 ・生徒総会の実施。							・特活部 ・児童・生徒会担当
○特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導の改善	○児童生徒一人ひとりの実態把握と理解をめざし、各学期に1回以上全職員による情報共有の場を設ける。 ○より新しい特別支援の視点を取り入れた、全職員対象の研修を年に1回以上行う。	・年度初めや学校行事の前に児童生徒指導協議会を開催したり、年度末において、情報交換の場を設けたりする。 ・児童生徒の困り感を特別支援・生徒指導・教育相談の三方向から分析し、ケース会議を通してより良い支援や指導、関係機関につないでいく。 ・特別支援教育に関わる専門的な知識や経験を有する講師を招聘し、職員研修を行う。							・生活部

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--